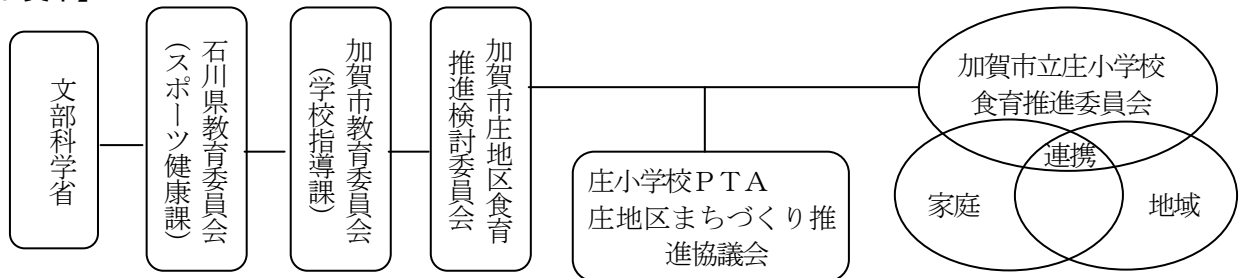


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

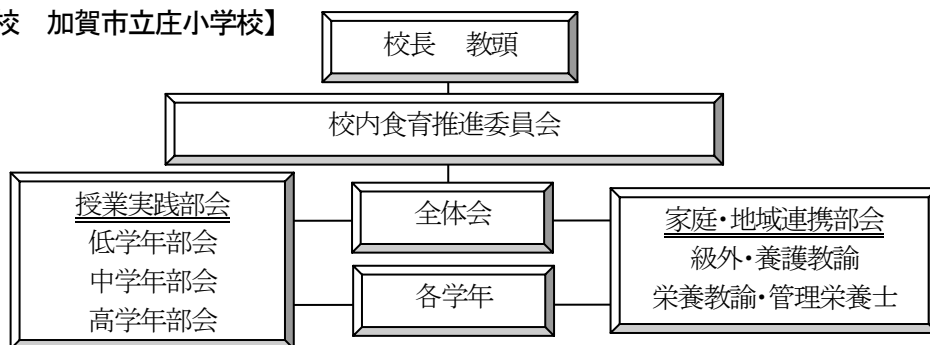
都道府県名	石川県
推進地域名	加賀市

1. 事業推進の体制

【加賀市】



【実践中心校 加賀市立庄小学校】



《研究主題》 望ましい食習慣を身につけ、健康な心と体の庄っ子を育もう
～学校・家庭・地域が連携した食育の実践～

2. 具体的取組等について

テーマ1 各教科等における食に関する指導を充実させるための取組み

栄養教諭勤務校ではない巡回担当校での実践研究。週に約1回の巡回訪問を活用。
栄養教諭の係わり…実践校教諭とともに指導計画の作成。
それに基づいた実践、また学級担任への指導資料及び教材等の提供。

① 食育指導年間計画・食に関する年間指導計画の作成、実践

- *児童の実態から食に関する指導の実践目標を設定し、食育指導年間計画及び各学年の年間計画を作成。
- 実践目標 A 食べることの意味や食べ物の働き、栄養について理解を深める
- B 食事のマナーを身につけ、楽しく食事ができるようにする
- C 地域の食材や料理に関心を高め、食について感謝の気持ちをもつことができるようにする

② 各学年の食育に関する授業実践

- *各学年の年間指導計画の基づき各教科等で食に関する授業を実施。
- 実践目標に沿った指導。
- *栄養教諭とのT・T授業の実施。
- 給食が生きた教材となるよう学習内容と当日の献立の一体化。
- 2年 えいようを考えてなんでも食べよう (実践目標A)
- 5年 これからの食料生産とわたしたち (実践目標C)
- *栄養教諭からの食に関する指導資料及び教材の提供。
- 児童にわかりやすい教材作成。



③ 給食時間における食育

- *給食時間に栄養教諭が教室へ出向き指導を実施。
- *児童による給食一口メモの放送 放送原稿は栄養教諭より提供。

④ 全校集会の時間における食育

- *栄養教諭が、毎月の給食目標に沿ったテーマで指導を実施。
食育クイズ、フラッシュカード、食材写真の作成・活用。

⑤ 食育掲示板の充実

- *全校集会及び給食の時間等の指導資料、児童の感想を掲示。
指導したことを児童が振り返る場。



テーマ2 学校行事及び児童会による食に関する取組み

栄養教諭の係わり…児童の取り組みたいテーマに沿った資料を提供。
児童が調べ学習でわからないことの相談。

① 健康フェア

- *全校で健康を考える機会とするために毎年実施。今年度は食に関するクイズを出題。
6年生が食に関する調べ学習をし、各自新聞を作成したり、クイズを考えたりする。
他学年の縦割りグループがスタンプカードを持ちウォークラリー形式で各コーナーをまわる。
作成した新聞やクイズは廊下に掲示。

② 健康教室

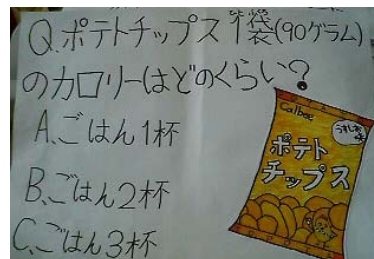
- *児童保健委員会による食育アンケートの結果発表。
*農家の方を講師に招き「食」についての講話を実施。

③ 保健委員会

- *全校に食育アンケートの結果を発表。
今後学校で食育について取り組むことを提案。

④ 給食委員会

- *栄養黒板に記入。
その日の献立、使われている食材カードを掲示。
- *給食時間の放送
栄養教諭が作成したその日の献立・食材・一口メモを放送。
- *夏の食べものについて、全校集会にて発表。
夏休み前の全校集会にて、自分たちで調べた夏の食生活について発表しみんなが考える場を提供。
発表のときに使った媒体は、掲示板に掲示。
- *お誕生日給食の実施。
誕生日が同じ月の児童が集まり会食。
児童による食に関するクイズ、教職員による食経験談などを発表。
- *給食について発表。
給食週間中の全校集会にて、給食をテーマにした発表予定。



⑤ 食育活動

- *食育コーナー掲示物の作成。
児童の活動にかかるものを掲示するときには児童とともに作成。
- *はしおきの作成。
食事マナーで食器の並べ方を学んだあと、児童とはしおきを作成。
- *食育ソング『3つの食べもののパワー』作成。
栄養教諭と5年児童が作詞、5年学級担任が作曲、5年児童が歌う。
全校児童に披露し、食の大切さを啓発。

『3つの食べもののパワー』

～抜粋～

笑顔輝く このクラス 元気の秘密知ってる? 外でいっぱい遊ぶのと 食べもののパワーのおかげだよ
黄色の仲間の食べものは パンやごはんや麺類にお芋も油も入るんだ
熱や力のもとになり 脳のはたらきを助けるよ
嫌いなものちょっとある 残したくなるものもある だけど 元気に過ごすには どの食べものも大切だ

テーマ3

家庭・地域と連携した食育推進のための取組み

栄養教諭の係わり…専門的立場から保護者や地域へ食に関する情報発信。

① 食育アンケートの実施

- *本研究を進める上で児童や家庭の実態を把握するために実施。
- *研究の成果を評価するために実施。



② 給食試食会

- *1年生の保護者を対象に実施。
- *栄養教諭による食についての講話を実施し、小学校生活における食について考える機会とする。

③ みんなでクッキング・親子クッキングの実施

- *保護者を対象のクッキングでは、家庭でできる食育プランを考える機会とする。給食メニューを調理実習することで、家庭での食事作りに役立てる。
- *親子を対象のクッキングでは、朝ごはんを考える機会とする。朝食メニューを親とこどもで分担して調理実習。



④ 夏休み食生活チェック『食にチャレンジ』の実施

- *決められた項目のほか、児童が食に関するめあてを自ら考え付け加えて実践。

⑤ 田畑体験学習の実施

- *地域の方々の協力を得て、お米や作物を作り収穫。
- *校長先生が育てた作物の重さ当てクイズなどを全校に実施。

⑥ もちつき大会の実施

- *保護者や地域の方と一緒にもちつきを体験。

⑦ 給食だより及び食育通信(さくらんぼ)の発行

- *給食目標に合わせて、望ましい食習慣を周知できるようにする。
- *食育通信は、家庭・地域へ発行し食育の啓発に役立てる。
- *食育通信には学校で行った食に関する指導の様子も掲載し、児童が指導を振り返る場としても活用する。



⑧ 食育カレンダーの発行

- *本研究の実践内容を掲載し、オリジナルカレンダーを作成。家庭・地域へ発行し、食育の啓発、望ましい食生活を周知できるようにする

テーマ1～3に共通する具体的計画

① 先進地視察

視察地 静岡県掛川市立大坂小学校

期 日 平成21年5月21日

参加者 加賀市立庄小学校 野崎教諭 加賀市立山代小学校 西田栄養教諭

視察内容 地域の保育園や小・中学校などと連携した食育研究について説明。また、校内全ての学級の授業を参観。食に関する指導題材の扱い方、子どもたちの授業に取り組む姿勢など本校の研究に参考となるものを学ぶことができた。

② 食育研究発表会

期 日 平成21年11月27日

会 場 加賀市立庄小学校

内 容 公開授業 4年学級活動 調理師さんにありがとうを伝えよう

(実践目標C) 5年家庭科 作っておいしく食べよう

講演会 「家庭・地域と連携した食育の推進について」

講師 横浜国立大学 教授 金子 佳代子氏

本研究の取り組み内容について説明。

家庭・地域と連携した食育の実践について講演。



③ 食育アンケート集計からみえてきた傾向

* 5月アンケート結果

〈児童アンケート〉

良好と思われる内容 ほとんどの児童が毎日朝食をとることができている。
学校給食が好きである。三食必ず食べるようにしている。

課題としてとらえる内容 朝ごはん…副食が少ない。栄養バランスまで考えていない。
食べない理由として、食べる時間がない、ダイエットのため、作ってもらえないなど解決すべき課題がみられた。
給食……… 2～3割の児童が残す現状。児童8割に好き嫌いがある。

〈保護者アンケート〉

普段の食事に気を配ったり、子どもに嫌いなものを食べさせようとしていたり保護者の様々な努力がみられる。
さらに食に関する情報を発信し、保護者とともにより良い食生活を考えていくことが必要。

* 2月アンケート結果

〈児童アンケート〉

5月でも良好と思われる内容が、さらに良くなり、望ましい食生活を実践していることがわかる。
課題として挙げた朝ごはんについてはあまり変化はみられなかったが、給食については残さず食べようとしている様子が見られる。

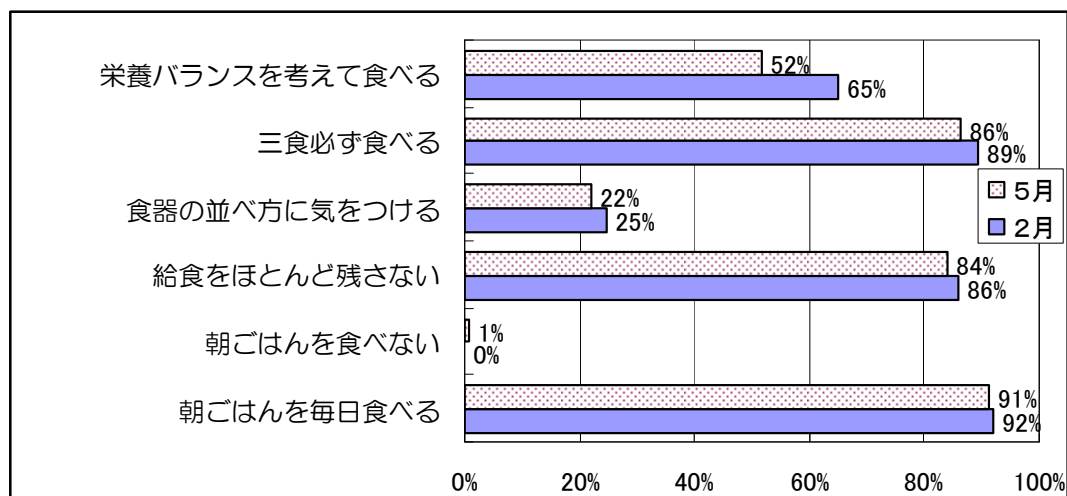
〈保護者アンケート〉

家庭で食に対して意識するようになったこと
栄養のバランスを考えるようになった。主食・主菜・副菜をそろえる、いろいろな食材を食べるなど。
旬のもの、地域でとれた食材を食べるようになった。
朝ごはんを毎日食べ、献立も充実させるようになった。
食事マナーを考えるようになった。正しい姿勢、食器の並べ方など。
家族で楽しく食事をするように心がけるようになった。

数字で変化のあった事項について

① 食育アンケート

本研究を始めた5月と食育実践をした2月の2回、全家庭に配布し実施。
児童の食事について次の項目で数字変化がみられた。



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

食育の研究に取り組み、様々な実践を通して、子どもたちはこれまでよりも食への関心が高まってきた。

① 年間指導計画の作成

各学年の食育年間指導計画を作成し、計画的な実践をすることができた。低・中・高学年それぞれの実践目標を設定し、全学年で、食べものの働きと栄養についての理解(A)、食事マナー(B)、食に対する感謝の気持ち(C)について共通理解し実践してきた。また、学年の系統性を考えた食育の実践も意識することができた。

② 栄養教諭と連携した指導

全校集会や給食の時間における栄養教諭の定期的な指導により、子どもたちの食に関する興味・関心が回を重ねるごとに高まっていった。また、給食を残さずに食べようという意欲にもつながった。

教科や学級活動等、栄養教諭との連携による授業においては、栄養教諭の専門的知識が生かされ、子どもたちの理解や意欲付けに大いに役立った。

また、教職員が食育の必要性を再認識し、理解を深めることにもつながった。指導の重点や視点が明確になり、自信をもって指導することができた。

③ 家庭・地域への発信

給食試食会やクッキング教室、食育アンケートの記入や生活チェックの実践、食育通信等により、保護者の食に対する関心が高まってきている。そして、子どもたちの健康な生活のためには、食べることや生活リズムの見直しが大切であることに気づき、改善しようという意識付けになった。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

① 栄養教諭と連携した効果的な指導体制づくり

様々な実践は、栄養教諭と連携をすることによって充実したものとなった。今後も栄養教諭の専門性を生かした効果的な指導体制づくりを構築していきたい。

② 確かな授業実践の継続

今年度の実践をふまえて、さらに系統的な食育の年間指導計画となるよう見直し、食育の授業や指導・食の体験についての研究を一層深め、充実した実践を積み重ねていきたい。

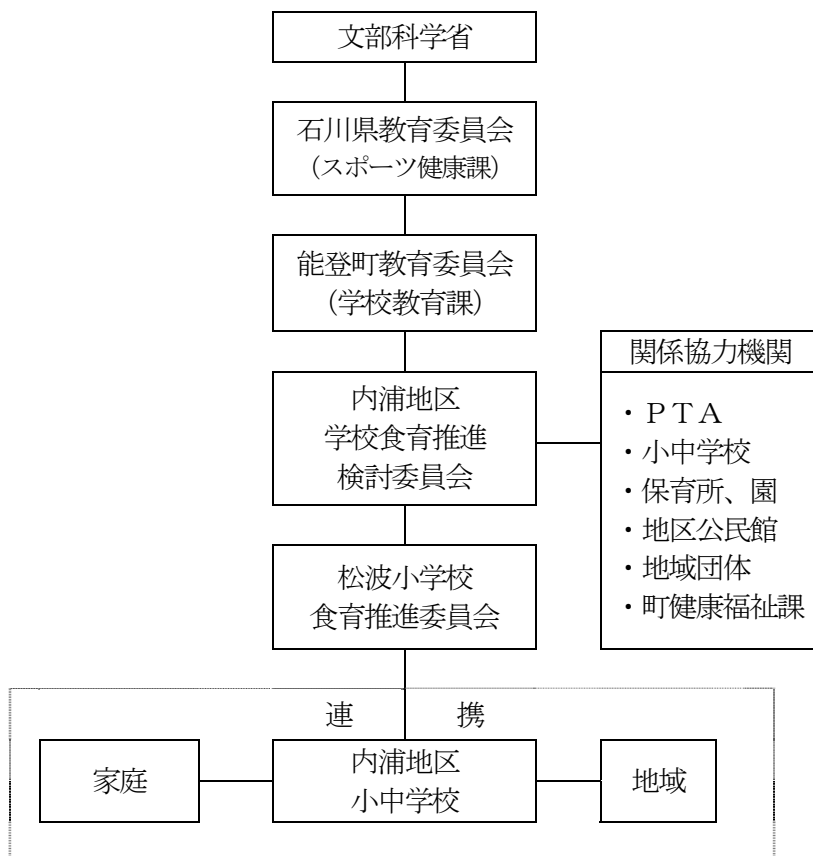
③ 家庭・地域に根付く食育をめざして

子どもたちの学びや実践が、保護者の意識改革につながり、生活習慣・食習慣の改善へと広がっていくこと、そして食育が家庭や地域にしっかり根付くことを目指して発信を続けていきたい。

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	石川県
推進地域名	能登町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 健全な食生活及び生活習慣の形成を通じた健やかな児童の育成

(1) 本校(実践中心校)としての取組

研究の流れ	取組内容
児童生活実態アンケートの実施(4月) ・学校生活内での食育指導が中心(学校給食・授業での指導など) ↓	◎生活実態を知る。 → 食育の指導・取組に生かす。 ① 校内食育推進委員会を設置し、研究の中心的役割を担う。 ア 児童生活実態アンケートの実施(4月)と調査結果の集計 イ 児童の実態に合った食育推進事業の計画・実施 ② 各教科等における生活習慣・食生活に関する指導の充実 ア 体育、家庭、総合的な学習の時間、道徳、学級活動等で指導する。 イ 一人二回以上の研究授業を実施し、指導力の向上を図る。 ウ 野菜の栽培や簡単な調理体験を通して、食育の充実を図る。 ③ 児童委員会(給食委員会)での取組 ア 早寝・早起き・朝ごはん運動の啓発と発表 ・食育標語の募集、紹介 ・食育ポスター作成 イ 給食集会(7月3日)の開催

<p>自然教室 (6年生が2泊3日で立山へ)の バイキング食での偏った食事</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・ 家庭での朝食実態を知る 必要あり (家庭内バイキングが 起きていないか)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>第1回食生活実態調査実施(7月) ・食卓に上ったメニューではなく、 児童が食べた一週間の朝食メニ ュー(使用食材・三色栄養素・栄養 バランス・食べた量・感想)を調 べた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・野菜の摂取率が低く高める指 導が必要。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>第2回食生活実態調査実施(9月) ・第1回と同じく、一週間の朝食 メニュー(使用食材・三色栄養素・ 栄養バランス・食べた量・感想) を調べ、比較した。</p> <p>・研究成果の発表</p> <p>・食育の充実</p> <p>・小中共同給食の開始</p> <p>各種アンケート調査</p> <p>・研究のまとめ</p>	<p>ウ 給食献立の情報提供 ・月目標 ・給食一口メモ ・給食黒板(食材, 栄養, 郷土食など)</p> <p>エ 給食残量調査</p> <p>④ 給食指導 ア 栄養教諭による給食時間の巡回指導 イ 献立における地場産物の積極的利用 ウ 地場産物生産者との交流</p> <p>⑤ 学校行事 ア もち米づくり体験</p> <p>⑥ 食育啓発広報活動 ア 給食, 食育, 学校, 学級だよりの発行</p> <p>◎4~6月までの指導・取組を踏まえ、朝ごはん実態を調査する。 → 栄養バランスの悪い食事があり、家庭との連携強化を図る。 特に野菜の摂取率が低く、高める指導・啓発が必要である。</p> <p>①これまでの取組の継続 ② 栄養バランスを意識した指導・取組 ③ 食育啓発授業参観・講演会(9月7日)の実施</p> <p>◎第1回実態調査と比較し、これまでの取組を評価する。 → 食事内容・栄養バランスを意識し、野菜摂取率が向上した。</p> <p>①公開食育研究会, 食育講演会(10月30日)の開催</p> <p>①これまでの取組の継続 ②第2回給食残量調査の実施(11月)</p> <p>①3学期より給食共同調理(調理場は松波中学校へ)開始 ②給食の準備・片付けについて指導徹底</p> <p>◎給食アンケートを実施し、給食への関心や地場産物等の知識について調査 する。(1月) →給食共同調理による影響はほとんど無い。地場産物をよく知っている。 ◎睡眠時間実態アンケートを実施する。(1月) →高学年で睡眠不足傾向が見られる。「早ね 大作戦」を実施した。</p> <p>①報告書の作成(県内全小中学校配付)</p>
--	--

(2) 家庭と連携した取組

- ① 食生活実態調査(7・9月)の実施と調査結果の報告及び啓発活動
 - ・第1回, 第2回実態調査が保護者の食育啓発に大いに有効であった。
- ② PTA事業での給食試食会及びミニ食育講演会(6月16日)の実施
- ③ 「夏休み 朝食おすすめレシピ」の募集と紹介
- ④ 「朝ごはん ありがとう運動」の実施
 - ・低学年は, 親子共同作業で朝食作り。高学年は, 児童が作り, 保護者と一緒に食事。朝食を作ってください
る保護者に感謝の心を持つとともに食材の命に感謝する取組
- ⑤ 睡眠時間実態アンケート及び「早ね 大作戦」(1月)の実施
- ⑥ PTA事業「親子クッキング教室」(2月6日)の実施





(3) 地域と連携した取組

- ① 公民館事業「親子郷土料理教室」及びミニ食育講演会（8月25日）の実施
- ② 「健やかな心と身体を育む講演会」（9月7日）の開催
 演題 「発育発達と自己実現」
 講師 金沢星稜大学人間科学部 大森重宜教授
 ・食育啓発授業参観後に実施。地域の小中学校・保育所の保護者にも呼びかけ開催。
- ③ 公開食育研究会，食育講演会（10月30日）の開催
- ④ 食育下敷（兼ランチョンマット）による地域への啓発（2月）



(4) 内浦地区小中学校と連携した取組

- ① 児童生活実態アンケートの実施（5月）と調査結果の集計及び啓発広報活動
- ② 松波中学校での食育講演会に講師派遣（6月18日，本校栄養教諭）
- ③ 本校の食育関連研究授業の指導案をメールで送付（12授業分）
- ④ 食育講演会プレゼン（本校栄養教諭作成）を送付
- ⑤ 地域の特産物を使った給食献立の実施
- ⑥ 食育関連購入図書・資料名一覧を送付



(5) 保育所・園と連携した取組

- ① 親子クッキング教室（7月7日内浦保育所・8月29日松波保育園）及び食育教室の実施

(6) 先進地に学ぶ取組

- ① 先進地調査（小松市・金沢市）の実施

テーマ1の事業実施の結果

本校では4月に生活実態アンケートを行った。続いて、内浦地区の小中学校（小学校2, 中学校2）でも生活実態アンケートを行った。中学校では寝る時間や朝食欠食率が少し低くなるが小学校だけで比較すると、ほぼ同様の結果が得られた。朝食欠食率は約3.5%で、多くの児童が毎日、朝食をとっていることが分かった。しかし、朝食内容は、「主食のみ」「おかずのみ」を食べてくる児童が約25%いて、栄養バランスのとれた十分な量の朝食を食べていない児童が多くいることが分かった。また、バイキング食での偏った食事の様子から、栄養バランスを考えたり不足分を付け加えたりできる児童の育成を図ることが大切だと考えた。

栄養教諭や養護教諭とのTT授業を中心とした教科や学級活動、給食時の指導で健全な食生活や生活習慣の形成に関する学習を行った結果、食に関する知識は豊富になり、自分の食事を3色栄養素の学習をもとに分析することができ、不足しているものを食べようという自立的な判断や食に関して自ら管理していく能力は身に付きつつある。

食生活実態調査や食育啓発授業参観・講演会、給食試食会、朝ごはんありがとう運動、広報活動等を通して、「学校任せでなく家庭でも食育が必要」という保護者の感想が多くなり、家庭での食事や生活習慣が子どもの成長に大きく影響することが伝わった。

「朝ごはん ありがとう運動」では、食事を作ってくれる家族への感謝と食べ物の命に感謝することを願って実施したが、多くの児童や保護者から今までの生活を振り返る感想が寄せられ、子どもだけでなく、保護者にも大きな効果があった。

食に関する学習を進める中で、多くの地元の方にゲストティーチャーとして野菜作りや伝統食品などを教えていただいた。今後もこの活動を継続しながら故郷の人と自然、地場産物、文化を愛する心を育てていきたいと考えている。

学校評価用児童アンケートの2月と7月を比較すると、「家庭学習」「係や当番の仕事」「清掃活動」「挨拶」など多くの項目で良くなっている。基本的な生活習慣や行動様式が身につけてきた児童が増えている。

親子クッキング教室には、来年度、入学する両保育所・園児と保護者が参加し、幼児と保護者に食育の大切さを考えてもらう良い機会となった。規則正しい生活習慣・食習慣を身につけて小学校へ入学することの大切さを訴えることができた。

親子郷土料理教室では、故郷に愛着を持ち食文化を伝えてほしいという願いから、食生活改善推進委員に協力いただき、郷土料理を紹介することができた。また、会場選定や各公民館便りの行事案内コーナーで紹介していただくなど、公民館の方々と連携しながら進めることができた。ミニ講演会では、学んだことを親子で会話しながら視聴する場面が多く見られ、親子で食育を考えるよい機会となった。

生活実態アンケート・指導案配付等を通して内浦地区小中学校と連携した取組も実施でき、食育推進の輪を広げることができた。

数字で変化のあった事項について

- 第1回、第2回食育実態調査（各1週間）から
 - ・主食または副菜だけの朝食（児童実態アンケート） 25.1% → 6.6% → 4.4%
 - ・「朝食に3栄養素がそろっている」との回答 73.5% → 80.6%
 - ・「バランスは取れている」との回答 85.6% → 90.6%
 - ・「野菜を食べている」との回答 61.0% → 67.5%

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

○食生活実態調査

児童の朝食の実態を知り指導に生かすために調査を行った。7月6日から1週間、食卓に上ったメニューではなく子どもが食べた朝食メニューを書いていた。具体的には、メニュー・使用食材名・食べた栄養素（3色）・栄養バランス（三択）・食べた量（三択）・取り組んだ感想である。そして、9月14日から1週間、追跡調査を行った。

○朝ごはん ありがとう運動

朝ごはんを作ってくださいる家族に感謝の気持ちを持ってほしい、食べ物の命に感謝の気持ちを持ってほしいという願いから「朝ごはん ありがとう運動」を実施した。子どもが家族のために朝ごはんを作る体験を通して、朝ごはん作りの大変さや大切さを理解するとともに今まで以上に感謝の気持ちが芽生えると考えた。また、食材の命を考え、好き嫌いせずに残さず食べる態度につながればと考えた。児童が取り組み、児童・保護者ともに大変好評だった。

- ・期 間 9月8日（火）～13日（日）の1日
- ・内 容 1～4年生 感謝の気持ちを込めて、保護者と一緒に朝ごはんを作り、食べる。
5年生以上 感謝の気持ちを込めて、子どもだけで作り、家族と一緒に食べる。
- ・留意点 子どもでも短い時間で簡単に作ることができるものにする。
赤黄緑の3色の栄養がそろうようにする。
「かんたん朝ごはんレシピ」も参考にする。

○食育啓発授業参観・食育講演会

1学期の間、教科や特別活動の時間を使って食育の授業を行い、食の重要性・食習慣の大切さについて指導してきた。また、家庭へは、給食・食育・学校・学級だよりを通して食育を推進してきた。保護者に、学校で行われている授業を見ていただくことにより、便りで知らせてきた内容の理解を深めていただくとともに、家庭との食育推進に向けた連携がさらに図れるのではないかと考え、全学級が食育関連内容を扱った公開授業を実施することにした。また、本校の公開授業終了後、内浦地域への食育啓発を目的に、内浦地区学校食育推進検討委員会主催の講演会を実施した。本校以外の小中学校や保育所・園の職員や保護者に案内チラシを配付し参加していただけるよう呼びかけた。講演会は、保護者自身が子ども達に与える生活習慣や食生活の大切さを実感するよい機会となった。オリンピック選手の実生活や事例をもとに明快で分かりやすく楽しい講演だった。



食育啓発授業参観



講演会

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 朝食の野菜摂取率は全体で約7%以上高くなっているが、低学年で大きく伸び、高学年では横ばい状態に変化が少ないという状況がある。家庭と連携しながら食育を推進するわけだが、学年が低いほど大きな効果が表れた。高学年は3色栄養素については、ほとんどの児童が給食のメニューを見て分類している状況から、食の大切さは分かっている。しかし、食に関して自ら管理していく能力が伴わないようである。食に関して自ら管理する能力を向上させることが今後の大きな課題である。